

四 鋤先遺跡^{すさき}

当遺跡は、川の上遺跡の北方に連続する遺跡で、祓川の右岸段丘直上に位置する。遺跡は旧石器時代から現代に至るまでの複合遺跡であるが、縄文時代の遺構としては落とし穴が調査されている。

遺跡の内容

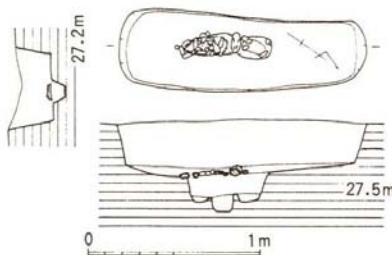
縄文時代の遺構としては、落とし穴が八基確認されている。これらの落とし穴は、床面形が長方形ないし長楕円形をなし、床面には柱穴を持つ。3号落とし穴は平面形が隅丸長方形を

なし、上面で長さ一・四五^{メートル}、幅〇・四〇^{メートル}、床面で一・三四^{メートル}、幅〇・四二^{メートル}と細長い形態をなし、深さは〇・三二^{メートル}である(第15図)。床面中央部には径七〜一五^{センチメートル}、深さ一五〜二三^{センチメートル}の柱穴が三基あり、柱穴の周縁部に小礫を配する。

当遺跡の縄文時代の出土遺物では、後世の遺構の埋土中などから姫島産黒曜石製やサヌカイト製の石鏃が数点出土している。

五 その他の遺跡

以上のような発掘調査によって明らかになった遺跡以外にも、遺物の表面採集によって縄文時代の遺跡の存在が予想されるものがある。



第15図 鋤先遺跡3号落とし穴

丸山遺跡

長養池の南側中央部に突き出た台地上にある遺跡で、標高は三五メートル前後である。所在地は大字豊津字丸山である。

遺跡は縄文時代から弥生時代にかけての集落跡と考えられる。縄文時代の明確な遺構は確認されていないが、石斧が出土している。

尾花原南遺跡

町宮陸上競技場の西側に延びる丘陵上で、旧県道椎田・勝山線の南側に隣接する遺跡である。標高約四五メートルで、所在地は大字豊津字尾花原である。

遺跡は縄文時代から平安時代に及ぶ集落跡と考えられる。縄文時代の遺物では石鏃が出土している。

台ヶ原南遺跡

豊津丘陵の南端で、南東に節丸地区の沖積平野を見下ろす位置にある。標高約八〇メートルで所在地の住所は大字豊津字台ヶ原である。

当遺跡からは石斧片と石鏃が採集されている。

頭無池東遺跡

吉岡集落の南部にある頭無池東側台地上に位置する。標高約六〇メートルで、所在地の住所は大字吉岡字頭無である。

当遺跡からは石鏃が採集されている。